

○ 地区の概要

➤ 地区の概要

篠路地区は、安政 5 年(1854 年)の幕吏・荒井金助による入植に続いて、万延元年(1860 年)の早山清太郎の入植により開基を迎えた、歴史ある地区である。

昭和 10 年には、札沼線が全面開通し、駅周辺は篠路村の中心として発展してきた。また、昭和 30 年の篠路村の札幌市への合併以降、急速に宅地化が進み、昭和 41 年には篠路駅前団地の造成が始まり、昭和 55 年には篠路拓北、昭和 61 年には篠路、平成 2 年には百合が原、太平において土地区画整理事業がそれぞれ着手されるなど、篠路地区及びその周辺地区は、増加する人口の受け皿としての役割も担ってきている。

その後は、篠路住宅団地「グリンピアしのろ」や地域福祉モデルゾーンをはじめ、駅周辺の土地区画整理事業調査、地域住民の参加によるまちづくりのガイドライン作成など、生活都心の育成に向けたまちづくりへの取り組みが、相互に関わりをもちながら展開されている。

また、古くから発展した歴史を有することから、「藍染め」や「篠路歌舞伎」などの伝統文化が継承されているなど文化的な活動が盛んな地域でもある。

【篠路地区の歴史】

安政 5 年	1854 年	<ul style="list-style-type: none"> ・幕吏荒井金助が農家 8 戸を入植させ荒井村を創設 ・荒井村の氏神として八幡神宮(現・篠路神社) 建立
万延元年	1860 年	<ul style="list-style-type: none"> ・早山清太郎が入植(篠路村の開基)
明治 4 年	1871 年	<ul style="list-style-type: none"> ・早山清太郎が開拓使により篠路村名主に任命 ・篠路村に味噌・醤油の官営工場を設立
5 年	1872 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路教育所(現・篠路小学校) 設置
15 年	1882 年	<ul style="list-style-type: none"> ・徳島県人滝本五郎「興産社」を組織して入植。藍の栽培、製造を開始
19 年	1886 年	<ul style="list-style-type: none"> ・龍雲寺建立
28 年	1895 年	<ul style="list-style-type: none"> ・札幌一茨戸間排水運河(現・創成川) 起工
32 年	1899 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路村戸長役場設置
35 年	1902 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路烈々布部落青年団を中心に篠路歌舞伎開始
昭和元年	1926 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路村畜産改良会がペルシュロン種 of 原産地フランスから種牡馬アニー号購入
9 年	1934 年	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 札沼線(桑園～当別間) 開通、篠路駅、新琴似駅開業
22 年	1947 年	<ul style="list-style-type: none"> ・村立篠路中学校(現・篠路中) 開校
23 年	1948 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路村農業協同組合設立
27 年	1952 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路村を新生活モデル町村に指定
30 年	1955 年	<ul style="list-style-type: none"> ・琴似町、篠路村が札幌市に合併
41 年	1966 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路駅前団地造成開始
47 年	1972 年	<ul style="list-style-type: none"> ・区制施行により北区役所開設
58 年	1983 年	<ul style="list-style-type: none"> ・百合が原公園開園
60 年	1985 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路コミュニティセンター開館、区内で藍染めが流行
61 年	1986 年	<ul style="list-style-type: none"> ・道立篠路高等学校開校 ・篠路子供歌舞伎開始
平成 6 年	1994 年	<ul style="list-style-type: none"> ・篠路地区住宅団地造成事業着手
7 年	1995 年	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 札沼線の複線化が一部(太平～篠路) 完成
9 年	1997 年	<ul style="list-style-type: none"> ・JR 札沼線の複線化が一部(篠路～あいの里) 完成

➤ 地区の位置づけ

1) 「札幌市まちづくり戦略ビジョン」

- ・ 「札幌市基本構想（H10.2改訂）」と「第4次札幌市長期総合計画（H12.1策定）」にかわる新たなまちづくりの基本的指針であり、札幌市の総合計画として最上位に位置付けられたものである。
- ・ 平成35年を目標年次と設定し、平成25年度から平成34年度までの10年間を計画期間と定めている。
- ・ 平成25年2月に目指すべき将来の街の姿を描いた「ビジョン編」が策定され、続けて平成25年10月に、主に行政が優先的・集中的に実施することを記載した「戦略編」を策定している。
- ・ 「戦略編」では、戦略を支える都市空間として、いくつかの分類がされているが、このうち当地区は、以下に示す都市空間に位置づけされている。

複合型高度利用市街地

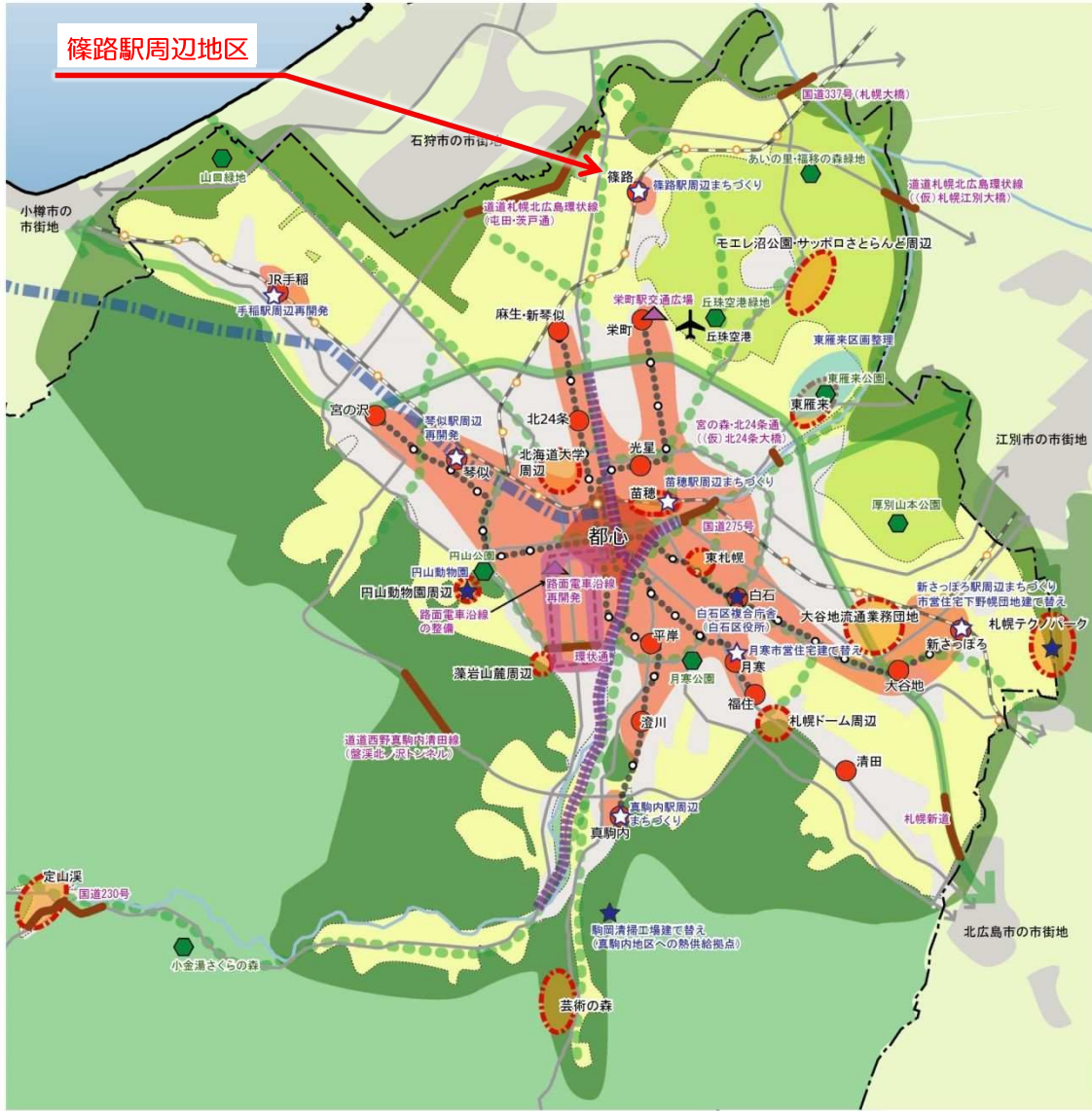
複合型の市街地形成を促進するため、再開発や緩和型土地利用計画制度の運用などにより、地区特性に応じて、集合型の居住機能と居住者の生活を支える多様な機能（商業等の生活利便機能、医療・福祉機能など）の立地を促進する。

地域交流拠点

拠点機能の向上を図るため、再開発や緩和型土地利用計画制度の運用のほか、様々な制度や支援策の運用などを通じて、特に、超高齢化社会の到来に対応した多様な都市機能（商業などの生活利便機能、区役所などの公共機能、医療・福祉機能など）の誘導を図る。

今後 10 年間の主な取組

「札幌市まちづくり戦略ビジョン」より



凡 例		
<p>＜市街地区区分＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合型高度利用市街地 一般市街地 郊外住宅地 		
<p>●●●○●●● 地下鉄と地下鉄駅</p> <p>—○— JRとJR駅</p> <p>—●— 路面電車</p> <p>—●— 高速道路</p> <p>●●● みどりの軸 (オープンスペース・コリドー)</p> <p>◆ 都心</p> <p>● 地域交流拠点</p> <p>● 高次機能交流拠点</p>		
<p>＜想定される主な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道新幹線(予定) 都心アクセス強化道路軸(予定) ★ 拠点の強化 ☆ 拠点の強化と共に市街地の再構築を進める 交通ネットワークの強化 みどり空間ネットワークの創出 		

2)「都市再開発方針」

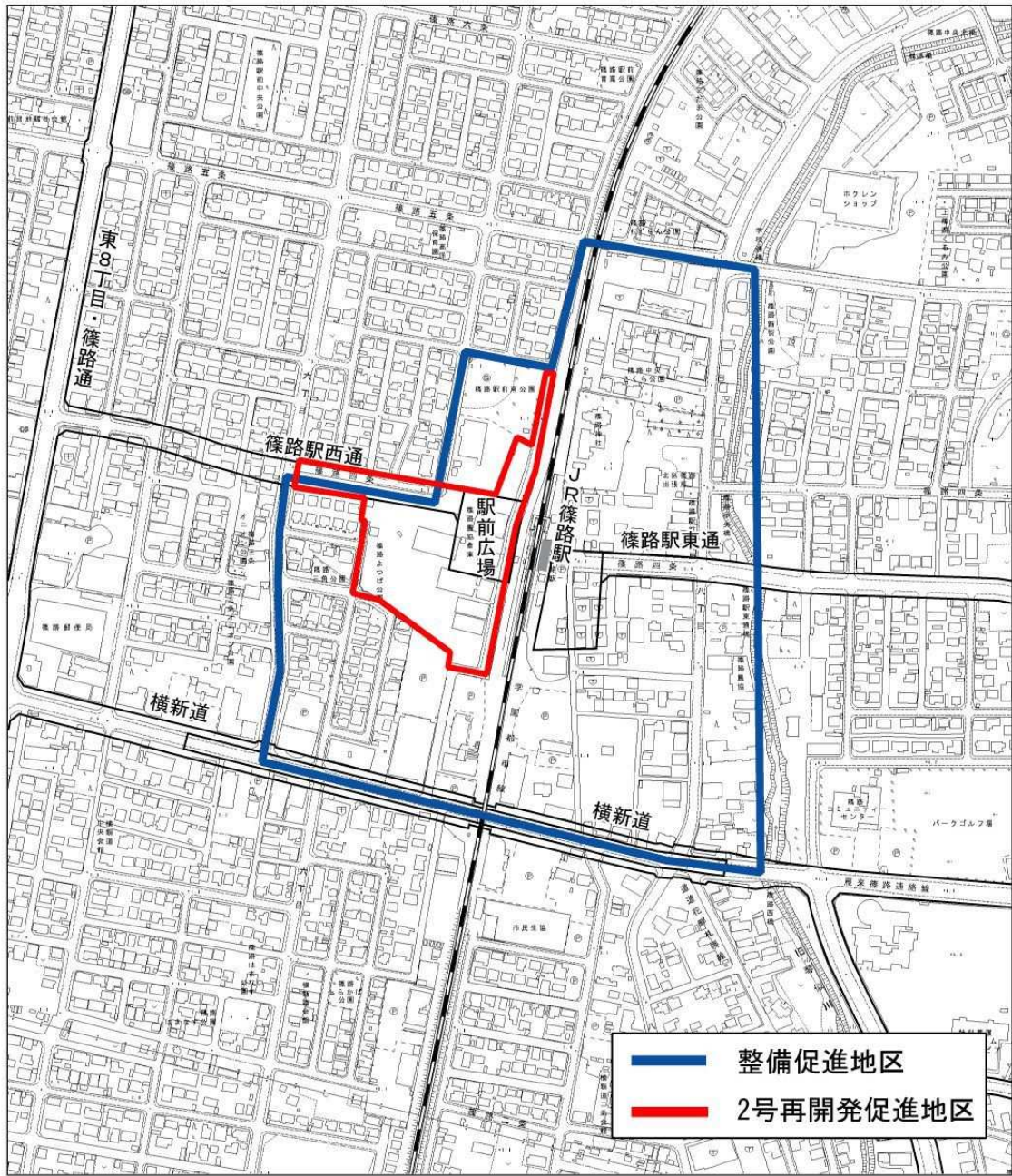
- ・ 札幌市の既成市街地において、長期的な視点に立って、計画的に再開発を推進するための基本的な考え方を示した指針。
- ・ 平成16年3月に改訂され、目標年次を平成32年と設定。
- ・ まちづくりの取り組みに応じて、1号市街地、整備促進地区、2号再開発促進地区といった区域と、それぞれの区域に応じた方針を定めており、当地区では以下の通り位置づけされている。

■ JR篠路駅周辺

整備促進地区
1号市街地（計画的な再開発が必要な地区）のうち、重点的に再開発の誘導を図るべき地区。
【主な取組】
○再開発への動きが高まりつつある地区において、基本計画などを策定し、事業化を促進
○再開発事業等の具体化に向けた誘導・支援

■ JR篠路駅西地区

2号再開発促進地区
整備促進地区のうち、再開発への熟度が高く、特に一体的かつ総合的に市街地の再開発を促進すべき地区。
【主な取組】
○優良な開発に対して、市街地再開発事業や優良建築物等整備事業の採択を行うなど、既成市街地の環境改善を促進
○再開発事業と連携して、道路や公園などの整備を促進
○建築規制の緩和や、認定再開発などの支援制度を通じて、民間開発を計画的に誘導



➤ まちづくりの経緯

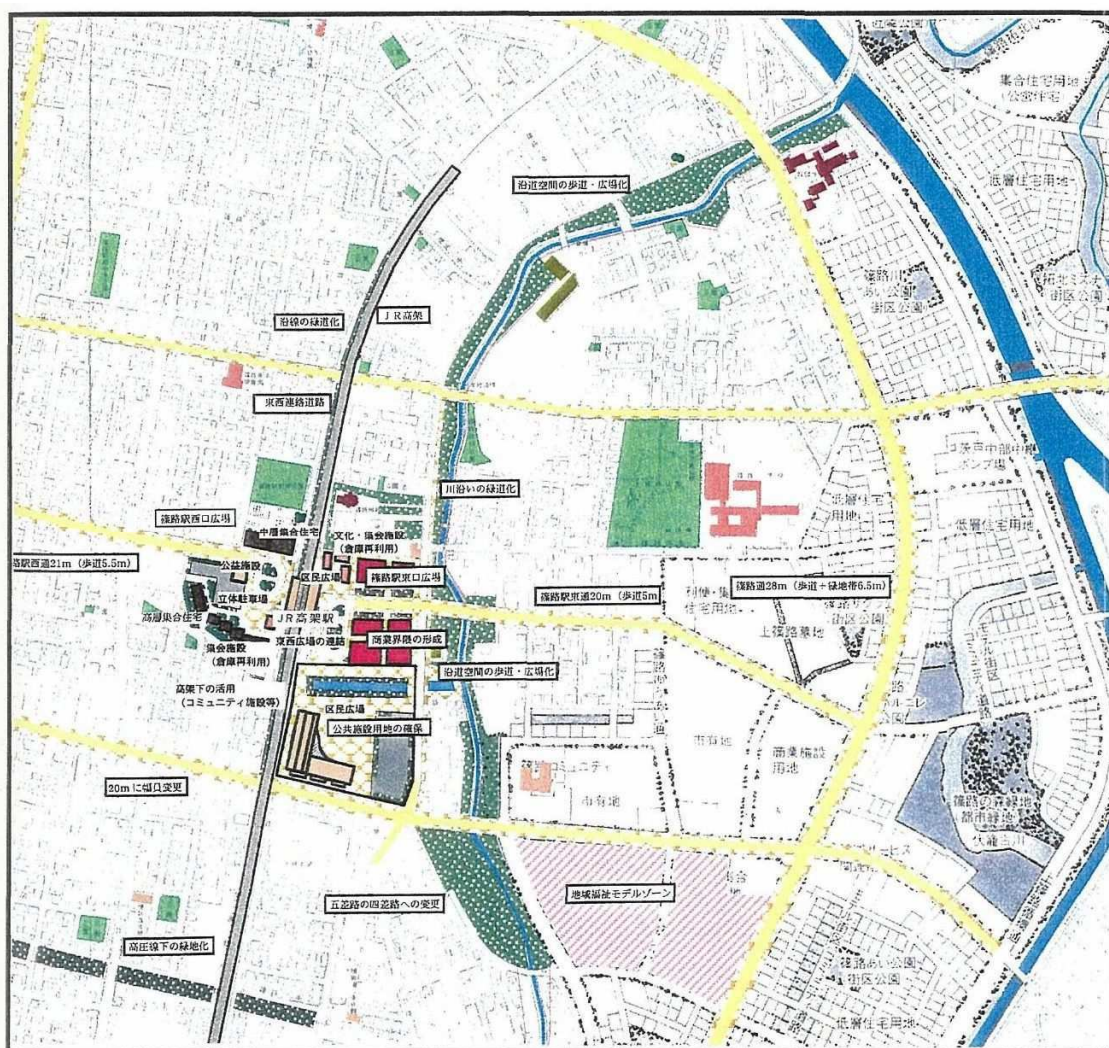
当地区におけるまちづくりの経緯を以下に示す。

昭和 40 年度	横新道都市計画決定（鉄道オーバーパス）
昭和 60 年度	篠路駅周辺活性化促進期成会発足 ⇒駅周辺の低利用地活用を目的に、篠路農協・連町等で構成
昭和 63 年度	第 3 次札幌市長期総合計画策定 ⇒篠路地区を「地域中心核」に位置づけ
平成 6 年度	「グリーンピアしのろ」開発決定
平成 7 年度	横新道整備に関する地元説明会開催 ⇒オーバーパスに対して反対意見が大勢 期成会から篠路地区開発計画対策委員会に組織改組 ⇒活動主体を連合町内会に移行
平成 9 年度	対策委員会から篠路地区街づくり促進委員会に組織改組 ⇒住民主体のまちづくりに姿勢転換 ワークショップを開始 ⇒まちづくりガイドライン作成 「グリーンピアしのろ」分譲開始
平成 11 年度	第 4 次札幌市長期総合計画策定 ⇒第 3 次同様、篠路地区を「地域中心核」に位置づけ
平成 13 年度	「篠路駅周辺地区まちづくり事業計画」策定
平成 14 年度	篠路アンダーパス開通
平成 16 年度	花畔札幌線（篠路駅前団地本通線～伏籠川間）整備完了 烈々布幹線（横新道～篠路横 21 号線間）道路整備着手
平成 19～ 21 年度	JR 篠路駅西口第二地区市街地再開発事業、駅前広場・篠路駅西通整備
平成 20 年度	北区篠路出張所サービス機能強化 横新道変則交差点暫定改良
平成 23 年度	横新道（国道 231 号～東 8 丁目・篠路通間）整備完了
平成 25 年度	札幌市の方針として、鉄道高架と区画整理を柱とした一体的なまちづくりを目指すことを表明 札幌市まちづくり戦略ビジョン策定 ⇒篠路地区を「地域交流拠点」に位置づけ

➤ まちづくり関連計画

1) まちづくりガイドライン（平成9年度）

- 地区住民の意向を広く集約するため、札幌市と篠路地区街づくり促進委員会が篠路連合町内会（約9,500世帯）全戸に呼びかけを行い、市と地元の共同による住民ワークショップを開催。
- 計6回の住民ワークショップを通じて、住民と行政が共有する街づくりの目標像として、「JR線の高架化とそれによる東西市街地の一体的な整備」を骨子とした15項目からなる「まちづくりガイドライン」を作成。



1. JR学園都市線 部分型高架にして沿線の緑道化と高架下の活用(騒音の影響の少ないコミュニティ施設等)	多くの支持を集めました。
2. 横新道 27mから20mへ幅員変更し、部分的に歩行者空間にゆとりをつくる(街路樹・ポケットパーク)	すでにセットバックしている敷地の使い方もこれからのまちづくりテーマになりそうです。
3. 五差路 斜め通りを廃止し四差路にする	犠牲が大きいため、迂回路を設けるなどの対応を望む声も多くありました。
4. クランク交差点 バス路線の変更	多くの支持を集めました。が、実現の可能性についての検証が必要です。
5. 旧琴似川 川沿いを散策できる連続的な親水空間をつくる	多くの支持を集めました。
6. 道道花畔札幌線 沿道に歩道を整備し、部分的に広場化して大樹を保存	歩道整備にあたって道路拡幅を行うか、現状幅員の中で対処するか分かれませんでした。
7. 篠路駅西通 21m道路の整備(歩道5.5m)	篠路駅西通の位置づけについての議論を要望する声がありました。 広場や集合住宅については、倉庫の活用やデザインでのまちなみへの配慮を望む声が多くを占めました。
8. 篠路駅西口広場 計画通り(東側広場との連結を図る)	
9. 篠路駅西口周辺 高層集合住宅、低層商業施設、倉庫を利用した集会施設	
10. 篠路駅東通 20m道路の整備(歩道5m)	東西の広場の連結や、駅周辺倉庫の活用が望まれています。
11. 篠路駅東口広場 計画通り(西側広場との連結を図る)	
12. 篠路駅東口周辺 旧琴似川東住宅地の道路網改良(住民要望があれば) 篠路神社と駅前広場を結ぶ区民広場 日常生活利便の店舗を集めた界隈の形成 公共施設用地の確保	
13. 倉庫などの歴史的建造物 区民広場の石造倉庫群をコミュニティ施設として再利用	施設の内容はこれからのまちづくりテーマになりそうです。
14. 東西連絡通路 学校通の延長	車の通行を可能とするかどうか、今後の議論が必要です。
15. その他 高圧線下の緑地化 マンションなど高層建築物の景観誘導	高圧線下については人体への影響を配慮した緑化が望まれています。

2) 篠路駅周辺地区まちづくり事業計画（平成14年3月策定）

① 経緯

- ・ 地域や国、JRなどの関係者を交えた検討会を経て、地区の整備方針や具体的な整備計画として示したもの。
- ・ 札幌市として、本計画を当地区の整備プログラムに位置づけ、事業精査の上、実現に向けた検討を進めることを決定。

② 計画概要

- ・ 地区の整備方針を以下のとおり設定。

整備方針 ～北区北部の生活文化拠点の形成～
○地域中心核にふさわしい「生活文化拠点」の構築
○新旧市街地の融合
○21世紀の福祉先進地区の育成による特色づけ

- ・ 上記整備方針のもと、鉄道高架と区画整理を柱とした基盤施設の整備計画や目指すべき土地利用計画を示している。

【道路等の基盤整備】



【篠路駅周辺の地区整備案】

